

Sophia Philharmonic Alumni Orchestra

上智大学OB管弦楽団

目眩く音の饗宴

F. メンデルスゾーン

交響曲第4番 イ長調 「イタリア」

R. シュトラウス

交響詩 「ドン・ファン」

P. I. チャイコフスキー

交響曲第5番 ホ短調

上智大学OB管弦楽団 第3回演奏会

2010年8月29日(日) 午後1時30分開演(午後1時開場)

すみだトリフォニー 大ホール

指揮: 汐澤安彦

全席自由: 1,000円 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。
60歳以上無料・チラシ持参者は入場料半額

チケットお申込みとお問合せ先

Email: sophia.ob.orch@gmail.com ◆ Fax: 03-5911-3916 (稲葉)

後援: 上智大学ソフィア会



名誉顧問:アルフォンス・デーケン (Alfons Deeken)

1932年8月3日ドイツ生まれ。1959年来日。1973年フォーダム大学大学院(ニューヨーク)で哲学博士の学位(Ph.D.)を取得。以後30年にわたり、上智大学で「死の哲学」などの講義を担当。カトリック司祭。

現在、上智大学名誉教授。「東京・生と死を考える会」名誉会長。「生と死を考える会全国協議会」名誉会長。1991年全米死生学財団賞、第39回菊池寛賞、1998年ドイツ功労十字勲章、1999年第15回東京都文化賞などを受賞。

主要著作:『よく生き よく笑い よき死と出会う』新潮社、『死とどう向き合うか』NHKライブラリー、『ユーモアは老いと死の妙薬』講談社、『生と死の教育』岩波書店、『光のダイアログ』三五館、他多数。



指揮:汐澤 安彦 (しおざわ やすひこ)

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業、同専攻科修了。トロンボーンを山本正人、指揮を金子登の各氏に師事。当初、バストロンボーン奏者として読売交響楽団に在団、かたわら、桐朋学園において斎藤秀雄氏より指揮法を学ぶ。

1973年、民音指揮コンクール(現・東京国際音楽コンクール)1位なしの第2位。1975年、ドイツに留学。ベルリン音楽大学、カラヤンアカデミーに学ぶ。

帰国後、オーケストラ、オペラ、合唱界に活躍。一方吹奏楽においては、東京音楽大学シンフォニックウィンドアンサンブル指揮者、東京吹奏楽団常任指揮者として永くその任にある他、東京佼成ウィンドオーケストラ、シエナウィンドオーケストラ、ジャパンスーパーバンド等の客演指揮者としてコンサート、録音、放送など幅広く演奏活動を行っている。

1999年、日本吹奏楽学会第9回日本吹奏楽アカデミー賞(演奏部門)受賞。

現在、東京音楽大学客員教授。東京吹奏楽団名誉指揮者。

上智大学管弦楽団では、1965年より常任指揮者をつとめている。



上智大学OB管弦楽団

上智大学はもうすぐ創立百周年を迎えますが、その中で管弦楽団は半世紀を超える歴史を刻んでいます。しかも、今回指揮をお願いした汐澤安彦氏が40年以上指揮とご指導を継続し、名誉顧問をお引き受けくださったA.デーケン氏が長年にわたって顧問の重責を果たしてこられました。上智大学管弦楽団の学内外における高い評価は、お二人のご尽力抜きに語ることはできません。

上智大学管弦楽団は、今までにドイツとオーストラリアへの2回の海外演奏旅行を経験しています。ドイツでは故H.V.カラヤン氏とオーストラリアでは故岩城宏之氏とご縁を作ることができました。残念ながらお二人ともお亡くなりになりましたが、お二人から多くのことを学ぶことができたことは、管弦楽団の貴重な財産になっていると思います。

OB管弦楽団は今回3回目の演奏会になります。卒業して30年、40年経つベテランから、今年卒業して社会人になったばかりの若手まで、幅広い世代が団員になっています。前回はベートーヴェンの交響曲第7番、サンサーンスの交響曲第3番“オルガン付き”という大曲を演奏しましたが、今回も大きな編成が活かせる魅力的な内容になっています。

すみだトリフォニーホール
〒130-0013 墨田区錦糸1-2-3
TEL:03-5608-5400(代表)

交通のご案内

【電車】

JR総武線「錦糸町駅」北口より徒歩3分

東京メトロ半蔵門線「錦糸町駅」3番出口より徒歩5分

【バス】

都営バス「錦糸町駅」下車徒歩3分

【お車】

アルカタワーズ駐車場をご利用ください。

有料・最初の1時間が500円、その後30分ごとに250円ずつ加算

